

## 留学報告書 II (2025 年度留学生)

|               |                           |
|---------------|---------------------------|
| 塾内在籍校・学年(派遣時) | 慶應義塾志木高等学校 2 年            |
| 留学先校名         | Winchester College        |
| 留学期間          | 2025 年 9 月から 2026 年 6 月まで |

### 留学を振り返って

#### 留学に行く前に期待していたこと、心配していたことはありましたか。実際に行ってどのように変わりましたか。

学業、人間性ともに成長できるような環境を期待していました。ハイレベルな授業はもちろん、試験にとらわれないその先の勉強、質の高い議論を求めて留学しました。また、異文化に興味があり、過去にアメリカに留学した経験と比較して世界においてイギリスはどのように位置しているのか関心を持っていました。

一方で、留學生活の基礎ともいえる英語力や勉強面でのキャッチアップについて心配していました。本当に生きていけるのかという一抹の不安もぬぐえず、友達など人間関係でも全く見通しが立っていませんでした。

実際に行ってみて、友達関係の心配は不要でした。私のハウスのこの代は少し特殊でもあり、4 年生の新生 new sixth form entrant が私のほかに 7 人ほどいました。皆初めての環境からのスタートであったこともあり、なじみやすかったように思います。また、入寮して直後に言われるのが、わからないことがあったらとにかくすぐ周りの人に聞きなさい、ということです。先生や、先輩、後輩に教えてもらいながらルールを学んでいきました。

#### クラブ活動や課外活動など、学業以外の活動について教えてください。

日本とは対照的に時間が許す限り種類を問わずいくらかでも課外活動に参加することができ、一年を通して濃い経験をするのができたと感じています。また、日本の部活動とは違いハウスマスターや Tutor (週一で勉強や部活などについて相談できる) に話せば途中で柔軟に活動を変えることもできます。

多種多様な Ekker (課外活動、部活動) が存在しています。私は rackets, Winkies, Cross country, Squash, Fly fishing, テニス、サッカーなどに勤しんでいました。1, 2, 3 学期のメインスポーツはそれぞれ football, Winkies, Tennis でした。Winkies とは WinColl 独自のスポーツで、ルールが複雑です。足を使うためサッカーや Winkies には苦手意識がありましたが、ハウス対抗週一でプレーし仲間と絆を深めるきっかけになりました。3 学期はテニスに打ち込み他校との試合にいくつか参加し、戦績を残すことができました。River Itchen というチョークストリームが近隣を流れており、他の場所では経験が難しい Fly fishing に挑戦する機会もありました。

Ekker はこのようなスポーツと、society のことも含んでいます。Society とは日本でいう文化系の部活動のことです。Ramsey soc (経済), Astro soc (天文), Chess soc, Python soc (プログラミング), Bell ringing society, BPhO club (イギリス物理オリンピックに向けた勉強会), STEP soc (STEP テストという、ケンブリッジ大学などの出願に必要な数学のテストに向けた勉強会) などに参加していました。Ramsey soc が主催していた校内のエッセイコンテストで 2 位 (うち 6 人が応募していました) をとれたのは自信につながりました。また、Bell ringing とは二学期から始めた週二回学校の Bell Tower でイギリス式のベルを鳴らすという活動です。非常に難しく、また危険であるため、上級者の合同鳴鐘には参加することはついには出来ませんでした。Rounds という最も基本的な鳴らし方 (メソッドと呼ばれています) に加わる事ができました。また、ベルを鳴らす際に数学的な順列の構造が見え隠れしており、もっと早くからやっていたらよかったと思うほど興味深い活動です。

生徒たちは CS(communitary service)か、CCF(Combined Cadet Forces)のいずれかに参加しており、私は CCF を選択しました。CCF では、週一回の活動で軍の訓練に参加していました。厳しいものではなく、あくまで課外活動の域で楽しむという印象が強かったです。フィールドで砲台などを組み立てたり運んだりしてタイムを競う Field Gun という競技を学校文化祭 Wykeham Day に向けて練習し、私のハウスが所属する Commoners が勝利したのは良い思い出です。

週一回ピアノのレッスンを受けていました。恥ずかしながら、イギリスに来る前まで正直ピアノは鍵盤を正しい位置と強さで押すことだけだと捉えていました。この一年で先生の指導の下、ペダルの踏み方や小節のつなぎ目、強弱やトーンの出し方など手取り足取り基本から学び、演奏を格段に上達させることができたと感じています。ハウスコンサートやチャリティーコンサートに参加し演奏を披露できる機会もいただきました。

米国主催の M3 チャレンジに参加しました。5 人組で数学のモデル計算に関する問題を 14 時間かけて解くという大会です。私より遥かに数学のできる人たちに抜擢され、学びの多い一日だったと記憶しています。今年度はギャンブルに関する問題が出題され、なじみのないテーマであることもあり苦戦しましたが、上位 20% の成績をもらうことができたため満足しています。

### 勉強の進め方や進学や将来について、アドバイザーや学校の先生と話す機会がありましたか。どのようなアドバイスをいただきましたか。

Tutor が割り当てられ、勉強や部活動面での指導やサポートを受けます。私の Tutor は語学の先生で、私が履修していた古典ギリシャ語でわからないことがあったら質問していました。進学に関しては 1 学期ごとに何回か学年の説明会が開かれます。また、学校が OW (Old Wykehamist) を招待してキャリアについて話したり質問したりできるコーナーが開かれたこともあります。アドバイザーとアポイントメントをとって将来のキャリアについてアドバイスをもらうこともできます。

昼食は学年ごとのテーブルに先生が一人座り、会話と食事を共にします。その際進路アドバイザーの方に、進路は自分が大学の先で何がしたいかによる、というアドバイスをいただき、私の将来の方針を天文と物理に転換するきっかけとなりました。

### 短期・長期休暇はどのように過ごしましたか？

すべての休暇は、ガーディアン会社に割り当てられたイギリス国内のホストファミリーで過ごしていました。ホストファミリーでの時間は、イギリス文化をふんだんに学べるチャンスであり、学校以上に文化的な学びを経験することができました。映画を鑑賞してその背景にある文脈を解説してもらったり、日々の英会話で出てくる英国特有の言い回しを学習したり、日本でできそうでできない文化的経験はこの留学で得た宝です。「文化的な対称性」とは私のこの留学生活におけるキーワードであり、最大の収穫だと考えています。イギリスの伝統的なデザートである Apple crumble を作ったり、conservatory で当初目標の一つだった星空案内をしたこともありました。クリスマスはウェールズ付近を訪れ、シュルズベリーの派遣留学生と過ごしました。その際のホストファミリーの方にも、mince pie の作り方を教えてもらったり、化石を拾える場所に行き拾ったり地質学のレクチャーを受けたりしました。

英国内で訪れた場所：

London, New Forest, Winchester, Bath, Avebury, Horsham, Ludlow, Chester, Salisbury, Stockbridge, Brockenhurst

Easter 長期休暇では Drew Travel Scholarship という学校内のアートの奨学金を勝ち取り、友人とギリシャのコルフ島に 4 日間滞在することができました。スケッチブックが配られ、現地でしたデッサンを持ち帰りました。最終的な作品では私の友人とアートの先生が教えてくれた、ペンと水を使った技法を用いました。その友達の両親や、私のホストファミリーの方に、大いに準備を手伝ってもらい感謝しています。3 学期にはギャラリーが開かれ、自身の作品が展示されました。私はアートを A-level としてとっていませんでしたため、自身の技術に不安がありましたが、多くの人から賞賛の声をいただき自信につながりました。

この一年間の留学を通して、毎日英語で日記を書いていました。あるとき、志木高での計量文献学の授業を思い出し、休暇を利用して自分の日記を自作のプログラムで分析し私の英語力の向上を定量化するというアイデアを思いつきました。休暇中の時間を利用して Science Soc Journal にレポートを提出し、エディターの生徒とやり取りをしながら記事をより良いものにできたと感じております。日本での経験と結びついた、非常に楽しい取り組みでした。

## 学業について

各授業について授業の内容・進め方・課題・試験・日本との比較などについて触れながら記入してください。  
授業の進め方で特に興味深いものがあれば、具体的に教えてください。

日本との違いは大きいです。科目は、数学、物理、経済、Div、古典ギリシャ語 (AS-level) を受講していました。それぞれの科目で二人の先生が割り当てられ、授業が進みます。Set という組の十五人ほどの

人数でそれぞれの授業を受けます。End of Topic Test, Cohort test, Mock exam の順に重要度が上がっていきます。テストは一月で5回（偏りあり）程度のペースで受けます。

数学は、思考力ベースの授業が展開されていました。最初の3週間ほどは3番目の set に位置していましたが、それ以降は top set に所属することができ、非常にハイレベルな数学教育を享受することができました。毎授業で先生の巧みな誘導と考え方に感動は必至です。また、他の生徒のレベルも非常に高く、問題の要求することと問題がほかの問題にどのようにつながるかを見抜く力に非常に長けています。比較して日本の数学教育はシステムチックなもので、解法を覚えさえすれば誰でも問題が解ける構成になっていると感じました。

経済は一年を通して正直苦手だった科目です。当初英語には自信がありましたが、エッセイ科目であり、定義文が非常に重要な科目である経済では、てこずりました。Macro と Micro に分かれており、Surface を用いて先生の板書を OneNote 上に記入するという、先進的な授業形態が展開され、最初こそ戸惑いましたが、すぐに慣れました。しかし、二学期の終わりからペーパー化が推進され、ノートをとる方針に移転しました。先生方が一年目であることもあり、方針がたびたび変化していました。政府の政策や身の回りの経済現象など、物事が少しずつ見えてくる感覚があり興味深かったです。

Div では、ウィンチェスターのモットー “Manners Maketh Man” が最も強く顕れる授業です。Div とは Division の略で、ウィンチェスター独自の授業です。私の Div don（don は学校内用語で先生を意味します）は音楽の先生であり、過去に歌手であった経歴を持つ面白い人物です。あるときは政治についてクラスでディベートしたり、またある時は生徒それぞれに授業をさせるときもありました。私は折り紙をクラスで発表しました。また、芸術作品についてスピーチを行い他の生徒と競う大会である Kenneth Clark の予選はこの Div set で行われました。私は鳥獣人物戯画を取り上げ発表しましたが予選通過は残念ながらありませんでした。しかし、2学期に Div set 内で選ばれるクラス首席（raise a book）になることができ、誇りに感じています。

また、内部の単元テスト等だけではなく、外部のテストを受ける機会がいくつかあります。GBEO（経済）、BIO（プログラミング）、SMC（数学—金賞）、BPhO（物理）など、結果こそ残せませんでした。レベル感をつかむ興味深い体験でした。

## 今後の派遣留学生へのアドバイス

### 塾内選考前にどのような準備をしていましたか。

書類選考前には出願に必要な英語能力テストを事前に受けていました。もともとウィンチェスターカレッジ志望だったため英語での学力テスト（例えば SAT など）は受けていませんでしたが、選択肢を広げるという意味でも受験をお勧めします。面接前には、校内の先生方とインタビュー練習をしていました。今考えてみると、周りの人に積極的にサポートを受けに行く能力はこの局面から必要だったように思います。自分がなぜ留学に行きたいか、目標と過去の軌跡を整理し、芯を持ったマインドセットを作る際支えていただきました。日本人としてイギリスに赴くことによって、どんな要素を留学先で残していけるか、を考えていました。それは文化を伝えるだけではなく、自身の人間性をいかようにして高め帰ってくるか、また日本にどのように還元するかまでを考慮するということです。広く学校を見てなぜ自分がその学校に行きたいかを明確にしておくことも重要です。

### 渡航前に日本で学習しておいた方がよいことや、用意しておいた方がよいことがあれば教えてください。

科目ごとに専門用語が多い科目とそうでない科目があります。日本語で知っている用語は、英語では全く異なる場合があります（特に数学）。英語での専門用語を軽く事前に学んでおくことでスムーズにキャッチアップができると思います。また、イギリスに存在する無数のアクセントにも耳を慣らしておくことも重要です。

しかし、私のとっていた科目（数学、物理、経済、Div、古典ギリシャ語）の範疇では、事前に勉強する必要は感じません。それよりも、日本について興味を持っている人が非常に多く、日常会話でも日本の場合など聞かれる場面が多々あります。戦争のことなどについてリサーチをしておくことで Div でのディスカッションなどで役に立つかもしれません。また、政治的な見解についても質問されることが多く、自分の意見を養っておけばよかったと反省している点もあります。

イギリスという未知の環境で様々なことを経験します。このような時にこそ周りの人に頼るということを忘れないでください。また、周囲の人に圧倒され挫折もつきものです。自分と周囲が大きく違っている環境だからこそ自身に目を向けることを怠らないでください。様々なことにチャレンジしていく機運を高め、何より日々を楽しんでください。

